

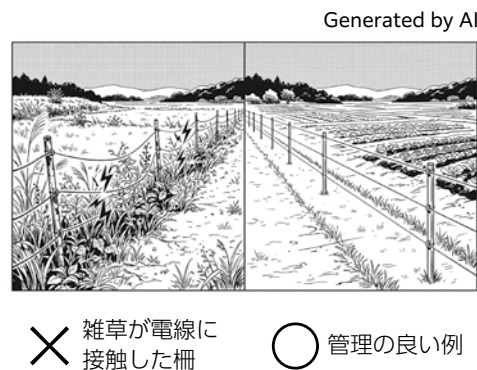
被害に負けない！ 鳥獣対策

市では、有害鳥獣による農作物被害を軽減するため、ワイヤーメッシュ柵や電気柵の整備を進めています。今回は、防護柵を設置した上で、その効果を十分に発揮するための維持管理のポイントを紹介します。

◎問い合わせ 森林保全課 ☎ 23-2152

「柵＋環境整備」で効果増大

防護柵は、設置するだけで効果を発揮するものではなく、周辺環境の管理と組み合わせることで効果が高まります。放置果樹や収穫残さ、茂みなどがあると、鳥獣を引き寄せる要因となり、柵の効果が弱まります。設置と併せて「餌場をつくらない環境づくり」を行うことが、被害防止の基本です。



草刈りと定期点検が重要

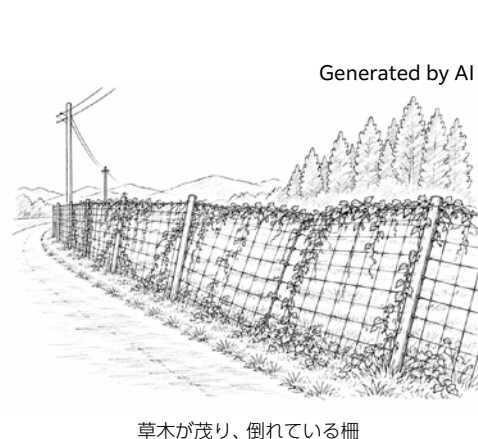
電気柵は、雑草が電線に触れると漏電し、十分な電圧を維持できなくなります。また、ワイヤーメッシュ柵も草木が繁茂すると、破損箇所や隙間を見落としてやすくなります。柵周辺の草刈りを定期的に行うとともに、支柱の傾きや金網の破れ、柵の下部に隙間がないかを確認し、異常があれば早めに補修することが大切です。



森林保全課
主任主事
谷川 琳音

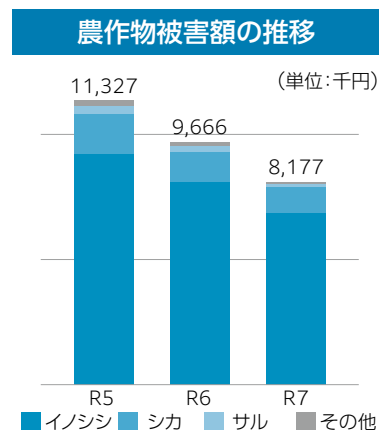
柵の設置後は管理を継続！

防護柵は、設置することが目的ではありません。その効果を維持するためには、草刈りや点検などの日常的な管理が不可欠です。管理が行き届かなくなると、せっかく設置した柵も簡単に突破されてしまうことがあります。「もう大丈夫だろう」と思った矢先に被害が発生することも多いため、定期的な見回りと早めの補修を徹底し、常に機能を維持しておくことが重要です。



地域ぐるみで被害防止

防護柵は、個人で管理するだけでなく、地域全体で取り組むことで、より高い効果が期待できます。定期的な見回りや情報共有を行うなど、地域ぐるみで管理することで効果的な鳥獣被害対策につながります。

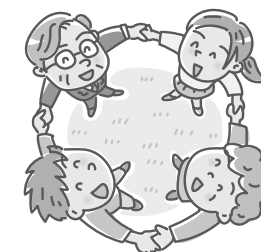


被害防止対策への支援

被害を防止するため、市では防護柵の設置などに係る取り組みの支援など各種補助事業を実施していますので詳しくは、お問い合わせください。




活気あふれる！ 地域活性化の取り組み



市内では、地域の課題解決や活性化のため、住民自ら考え行動する住民主体の地域づくりが広がり、各地で意欲的な取り組みが行われています。今回は、横市地区の取り組みを紹介します。

◎問い合わせ 地域振興課 ☎ 23-7146

地域の課題を地域で解決

本市では、協働のまちづくりの拠点として、各地区にまちづくり協議会を設置。さらに、地域の課題を地域の力で解決する取り組みを支援するため、平成25年度から都市地域活性化事業を展開しています。

地域活性化事業は、まちづくり協議会だけでなく地域住民などで構成される団体が提案できます。

※詳しくは、市ホームページを確認ください



子どもと地域が紡ぐつながりの場

【横市地区子ども体験プロジェクト事業】

行動制限を強いられていたコロナ禍を経て、活動や実体験の機会を子どもに届けたい。そんな思いから始まったのが、横市地区まちづくり協議会による「子ども体験プロジェクト」です。

今回は、同事業を実施している横市地区まちづくり協議会の原田事務局長と会員の岡本さんに話を聞きました。

Q 事業のきっかけは

A コロナ禍明け、子どもたちに何か見る、聞く、動くなどを体験させてあげたいと考えたのが始まりです。以前から親交のあった劇団ユニット「あんでな」の劇や、小林秀峰高校の新体操を子どもたちに体験させたいと、まちづくり協議会へ提案しました。

Q 事業の内容は

A ユニット「あんでな」の芝居を観劇したり、小林秀峰高校新体操部を観賞し、実際にマット運動を体験したりしました。事業運営には、中学校のボランティアサークルの皆さんが受付や誘導、消毒対応など、事業を支える大切な一員として協力してくれています。



横市地区まちづくり協議会

事務局長 原田 周作さん

会員 岡本 愛子さん

Q 印象に残っていることは

A 知名度のある団体を招くことで、親子連れから高齢者まで幅広い世代が集まってくれたことです。また、これらのイベントをきっかけに、参加した多くの子どもたちが地区祭りなどの地域行事にも参加してくれるようになりました。

Q 今後に向けての思いは

A 現在は公民館横の西小学校の建て替えに伴い活動が制限されていますが、来年度以降は新たな取り組みを行っていきたいと考えています。恒例の地区祭りなどの継続事業に加え、その時々で多くの人が集まれるイベントを企画するなど、地域を盛り上げていくことが目標です。これからも、地域が心を通わせることができる居場所づくりを続けていきたいです。